

右田道灌雄飛録

四

L289
才

20 1 2 3 4 5 6 7 8 9 130 1 2 3 4 5

か 本 安見料
 前書荒倉并給失未
 あり代金申受ふ又貸
 望内所より万一本集り
 別見料中受ふ也
 書林 高橋傳吉



太田道灌雄飛録卷之四

目錄

- 一天子ニツの日双び出るる附り上杉顯房五十五にお幸あわす
- 一太田道灌上洛のり附り受政公へ謁見并勅答録奇のり
- 一成氏長尾昌賢と武州今井軍のり
 附り 結城成朝武三つ
- 一成氏長尾昌賢と武州六郷わく再び軍のり
 附り 小机弾正左衛門のり
- 一古河方改知と伊重國三島わく合戦のり
 附り 古河方敗軍の事
- 一長尾昌賢古河の城を為す附り成氏千葉へ退去のり
- 一長尾景春逆心附り太田道灌異見のり
- 一道灌より移り赤妻保親を勧む附り赤妻保親のり

信康の御息所
神田の社あり
侍りしに

大田道灌

晴くはるまふと
あはれに侍りしに

大田道灌雄飛録卷之四

東都 木村梅年忠貞編輯

○天正二の月廿七日。所り上杉房顕陣中にて幸玄の夏

長福も後四年ゆへ其年の十二月廿二日改元ありて寛正元年とぞあり
ふり。是より明正二年辛巳正月元日正二の月廿七日。天正二年
妖の社あり。聞つる所の事あり。因のあり。世を思ひ。今も
穩まらざる世の中。又の事あり。變事あり。おん。と。公。教。人。の。り。て。
下。る。旅。し。と。農。夫。の。中。で。魂。の。消。し。腫。を。冷。さ。す。と。り。者。あり。されど
京。都。の。後。領。富。山。入。道。徳。本。が。家。督。の。付。政。長。義。就。遺。跡。と。あり。し。ゆ。
軍。始。り。し。り。上。杉。も。何。と。申。し。替。り。し。又。東。國。の。山。内。の。兵。部。少。輔。房
顕。武。元。五。十。子。久。く。在。陣。し。て。屢。御。所。方。を。敗。す。日。あ。る。て。一。統。の

功とあるとす、（中略）元永年丙戌七月廿日、運命涯際ありて陣中あり、
（中略）成氏と責とが、東國と平均と治むとて、諸家勇
 一とと相續す、（中略）長尾の者も崩谷相護と遂げ、伊豆の政勢とあり、
 一とと相續す、（中略）長尾の者も崩谷相護と遂げ、伊豆の政勢とあり、
（中略）細川勝元と四職乃山名宗全と、権威とあり、（中略）應仁元年より
（中略）後、（中略）將軍長政の令、令義親、（中略）不、（中略）

將軍家もあきとあり、細川も又二流とあり、（中略）一
（中略）家二つとあり、（中略）彼天受の、（中略）その應とあり、（中略）文正元
（中略）年九月六日、河越あり、（中略）女人も、（中略）世に
（中略）かみ、（中略）中、（中略）不、（中略）

○道灌と信長政、（中略）速く、（中略）

後土御門院の事

寛正二年甲申七月、百二代之帝、後土御門院御脱履ありて、御位を春宮成仁
 親王より禪すあり、後土御門院とす、（中略）

嘉樂門院大炊御門内大臣信家等の姫君等の直上内即後のとらむ御
 寶篋二十三歳ふあ〜せう入関向二條相國持通とあり。將軍長政公院の
 執事とあり。准二后の宣下あり。公緒國の武家より侍即後の若くは公
 小御軍家への加儀とて。使者見ふと落して親類とせしむるも付。關東も
 も危が谷の上秋修程たま定正より。老臣太田左衛門持資又使者公金言
 せしむ持資畏りて先幸又資清入道とて。道真と號せし例も働ひ。入道と
 罷上りてや〜の頼ひも付。定正幹家あり〜すれり入道とて道灌と
 号し〜頭て都へぞより。到着のう時の管領畠山尾張守政長もはて
 今度慶賀の爲上洛の由とて。別長政公沙目見候せつけ〜と上り。あ
 關東の事救事授けとて辭繼の朝あり。いりあり〜勢あり仍〜とぞ。
 汝へと秋果代り候はる。早く一洗功を立て。吾民の塗炭と救へ〜と

何の〜とて道灌とて〜の東國平均の事頼るべ〜も〜
 故の〜とて始り〜とて錯ちふあるまで。二綱を失ひ五常を失りて。是は忠義
 無く父子孝貞を失〜とてはる。あつらひのうら〜史婦の別も疎小も初は律ひ
 多くありぬ。況や朋友の信向るるも思ひよ〜とて。慈も頼り〜とて
 飽く〜とて。或は苛政をりて民を苦め。又一朝の怒も我を專〜と
 略自の味も今自に敵と交り。人の道とするをを學ぶとて。公偏も夷狄
 の如〜。かる者ども忍ぶ。横行して弱く公弊〜強き公端の村邑を奪ひ
 郡縣を擽り。爰はの下知も従ひ。公巴が公國〜あり。これ一應再念を
 嚴命あり〜も。承伏するのわぶ〜も。愚良熟業むらふ。若今將軍公院の
 知勇を兼備〜とて。大將をえ〜び。大軍を起〜東公公〜降る
 者〜人の公愚ふ〜とて。公領を〜も。公を〜とて。公の〜

攻亡が。様交ふとて。寛猛の山政事。あつた。まふの。めい故
 基氏々の時の。治平と。ついで。外よ。あふ。静燈。日。難る。
 へ。輝。も。あ。その。政。も。甚。感。あり。
 汝。早。國。あ。上。放。も。能。す。然。開。東。治。平。の。計。畧。み。ら。げ。
 へ。程。も。あ。征。討。の。た。お。も。る。び。大。軍。も。あ。入。と。も。あ。り。佛。を
 刀。と。福。と。遇。と。れ。と。あ。の。佛。の。入。州。も。各。各。も。勇。ま。す。と。殊。も。智。徳。の。傳
 と。海。流。の。り。が。あ。る。者。も。當。附。の。軍。も。あ。り。思。の。傳。も。已。ま。な。と。ま。す。平。安。故
 逆。も。協。へ。ぐ。ぐ。況。や。陪。臣。の。身。も。あ。り。も。各。各。の。勇。ま。す。と。古。く。名。を。稱。讃。せ。た。
 小。ま。の。兼。て。道。清。の。奇。め。巧。ま。る。を。敵。國。あ。り。し。も。勅。使。と。り。て。武。藏。野。の。風。も。同。の。ま。り。
 道。清。も。わ。く。わ。く。も。あ。り。ま。り。た。ま。の。ま。り。ま。り。の。ま。り。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。
 道。清。も。わ。く。わ。く。も。あ。り。ま。り。た。ま。の。ま。り。ま。り。の。ま。り。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。

や。も。ま。り。ま。り。の。ま。り。ま。り。の。ま。り。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。
 勅。使。も。あ。り。し。も。委。問。あ。り。し。も。感。感。斜。ま。り。御。製。ふ。り。お。物。も。流。く。ま。り。の。
 む。こ。一。野。の。か。つ。や。の。め。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。
 其。以。湘。川。勝。元。道。清。の。通。の。唐。の。韓。退。之。短。忽。不。成。功。の。あ。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。
 かく。道。清。の。あ。り。の。首。尾。あ。り。し。も。務。余。入。り。も。あ。り。定。正。の。對。也。の。軍。也。
 此。言。の。事。も。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。
 夫。も。道。清。の。あ。り。の。命。也。知。り。し。も。あ。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。

○古河の成也長尾昌賢と武及今井合戦附の諸成朝先陣武
 勇と昔者も昔一
 ま。あ。り。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。の。ま。り。

千人崩谷も知れずいして文正元年丙戌二月中旬八千餘騎と率一々
 古河の城へぞ向ひたる。將軍かくもあはれし。成氏も旗下の佐將をあへて
 らまゝなるふ。三千餘騎の着到なり。け小勢なり。も尾が大軍と強今も我
 かさへる。不詮城小楯ごり。要害なり。防人と陣定あり。とる。とる。か
 諸城中勢少補成朝進もくやきん。城小籠るとり。とる。止む事なほ
 めえり。今籠城せ。敵の氣と音も味方乃勇を屈し。又後活の助を
 ち。とる。時之精末種ふ。とる。落城時中あり。一騎さうとも。て
 出豫会勢を待待ん。味方かかろ者き。て。せ。た。も尾が勢八千餘。味
 方も二千あり。敵のさす。比ぶん。二人す。中。並。並。今。の。軍。め。の
 程め。相。め。め。と。ん。の。ふ。と。り。よ。も。ぎ。と。敵。き。よ。ま。せ。ら。ま。と。居。負。け
 ら。ん。と。せ。た。お。の。石。え。た。れ。も。尾。等。が。武。勇。を。六。知。り。遠。く。ゆ。り。の。代。を

多神速と貴ぶとふ。一のり。成朝先陣は。蹴散して捨れん。途中
 一戦も。も尾入道は。味方。さ。す。下。の。方。一。も。利。ま。ん。が。共。し。た。と。そ。の。能。城
 も。然。る。へ。た。色。と。勢。ま。は。励。ま。し。理。を。説。き。て。勅。め。り。と。人。々。世。言。ふ。勇。ま。も。ち。親。士
 勝。り。と。く。三千餘騎。古河の城を。守。り。て。武藏國豊鴻郡。今井。今。井。まで。出。張
 して。け。の。陣。を。た。る。も。尾。方。の。者。も。へ。ち。の。方。小。物。か。と。聞。る。あり。居。城。は
 離。れ。て。遠。く。と。他。國。まで。出。ち。つ。べ。い。の。よ。ま。と。ま。り。て。能。城。と。相。置
 て。八千餘騎の軍を。お。り。ひ。く。と。進。む。も。斯。く。油。断。せ。し。む。敵。今。井。まで
 出。る。と。い。ふ。受。め。も。あ。ら。ず。と。う。く。と。と。そ。お。せ。る。備。又。結。成。朝。の。謀。略。を
 し。者。あ。れ。ば。恐。び。ろ。者。殺。多。敵。陣。へ。い。ま。を。難。境。を。と。り。せ。ら。る。も。成。氏。は
 方。の。豫。会。の。大。勢。か。あ。り。と。聞。て。始。め。の。三千餘騎。あり。と。言。す。も。と。ん。と。小。勢
 失。く。僅。小。み。百人。を。う。り。よ。あ。ら。ず。も。是。め。と。り。籠。城。ま。の。ひ。に。下。張。の。千。母。を



長祿二辛巳年正月
元日天に二ツの日双入
猪人驚るる圖



頼とて落行んと用意する由めくゆく實一すまヤマ一六。毛尾勢のされを
し其かひて思ひ一奉るれ。千葉八頃目より我家兵恨むるも細ありて。か中平
と周安のり。清新とあせあひくして。後日の頼ひある。道と遮りて討つ
ぶく。三千騎を二とす。千六百騎へ下総の葛飾郡市川の渡子陣。
千六百騎の同知松戸の渡子屯を破り。今や遅く待たぬ。同者どもなり
来りてい。松丸告ぐ。本朝の保成。今に敵を怖る。ふほく。き
とて。今井乃其より二引籠の旗あり。態と旗のまへに。一勢く
鎮り。つて控えさう。毛尾方のかとも。わい。品川を越る。泥の春よ
かろ。松谷を過て。今井より。牛込の兵。千五百へ。あんと進。其の
け大勢を。松丸押を。さ。同。河越の城。な。りて。留るめ。

今井千代田若狭守同家田源八希曾を。居られ。か。遠。く。り。あ。る。
さる。わ。ら。ぶ。毛。尾。先。隊。今。井。未。了。く。向。ひ。あ。る。春。を。見。上。これ。は。浪。甲
の。軍。三。千。を。り。整。く。して。も。り。え。さ。り。是。の。敵。味。か。れ。旗。の。ま。と。り。り
さ。み。目。方。後。陣。の。勢。を。待。そ。う。大。將。の。下。知。は。け。て。各。兵。進。む。と。さ
る。調。と。ひ。えて。擁。護。る。成。氏。を。と。り。さ。り。敵。の。先。陣。逃。つ。さ。う。後。陣
は。續。々。さ。る。その。ま。一。歩。あ。り。て。え。と。く。下。知。あ。る。結。城。松。丸。の。ひ。と。と。千
餘。騎。を。急。鋒。小。走。り。岡。の。声。を。揚。と。ひ。く。三。段。の。た。り。巴。の。後。は。ま。さ。る
旗。の。ま。と。り。と。下。遠。散。り。あ。り。て。毛。尾。勢。の。結。城。が。旗。の。紋。を。え。て。ま
清。新。の。は。ま。さ。り。あ。り。て。毛。尾。の。ひ。と。と。り。先。陣。を。破。り。外。山。色
め。り。く。部。伍。る。あ。り。て。え。と。く。必。死。得。る。か。し。と。雷。霆。の。轟。く。と。り。り
ま。あ。り。毛。尾。が。先。陣。を。破。り。て。東。山。の。方。に。逃。る。あ。り。て。必。死。得。る。か。し。と。雷。霆。の。轟。く。と。り。り

討つて多分ぬれり。今井の軍もあつたが。女氏おぼろしく悦ばる。先陣は
 軍ありて味方助おぼろしく。長尾陣も聞えり。田原の道方先陣の三千
 餘騎と引率し馬と早りとあせり。今井の意を吃とす。小勢の多きは
 縁とも二つ引射の旗士流義海。松尾小龍也のどく吹塵を堂として押
 出。も尾の道とて。敵はあて小勢あへん。分内捷き。今井の軍勢の
 進退石自在。却て小勢は利と得。とん。あの田原の原へ押上げて。今井
 軍三千。三千餘騎の兵も曳や声をおこす。書りし。田原方も。田原
 坂より。旗とて。入て。入て。射りあはれ。先きの士二十人。矢場小指
 の側へ射付られ。の外も肩ひの教とあはれ。されど敵も流石。名は死ん
 死よと素誠く。推まく坂と押。敵陣をえ渡。其の千の士勢あり。是
 むぬや。膝一。馬といて。進。女氏の三千餘騎と。二。先陣と

結城成朝一千餘騎。二陣。下総勢一千騎。今一。田原の女氏一千騎。先陣二
 陣。戦ひ。疲。入。と。推。結城成朝の先刻の。今。勝
 あり。半。あ。お。率。も。あ。さ。み。下。知。坂。と。し。騎。小。馬。と。あ
 出。敵。向。邊。と。あ。り。一。矢。射。ち。づ。る。程。と。あ。は。れ。入。丸。に。さ
 東西。入。せ。旗。旗。陣。地。よ。り。れ。け。付。つ。け。あ。る。ま。う。さ。血。混。じ。て。河。原
 一。屋。の。墨。と。と。と。固。め。ぬ。る。と。の。敵。射。付。死。灰。顔。を。入。ま。く。戦。へ。た。
 雲。と。と。の。の。る。忽。小。疾。と。と。と。と。驚。色。伏。し。女。射。地。よ。り。下。さ。り。よ。さ。を。平
 疾。む。と。と。と。と。あ。く。ま。行。き。と。と。と。と。田。原。乃。も。と。負。ひ。既。小。射。る。べ。り。と。成
 氏。遙。よ。と。と。と。石。智。の。白。浪。と。り。入。旗。足。と。赤。と。せ。は。勢。の。中。より。三百。餘。騎。を
 送。ら。れ。り。女。射。と。と。と。よ。力。と。と。と。あ。も。扇。と。戦。へ。二。陣。を。備。へ。下。総。勢。
 田。原。河。原。守。と。始。り。と。と。と。一。千。餘。騎。射。つ。と。と。と。や。お。り。ひ。た。ん。た。と。い。疲。色。と。と

毛尾勢の謀合より。急の御りや敵とあそく馳出せし。成氏少々の百餘騎と
 縲出され荒れよ智えんと追まう。毛尾勢の長途とあそくのひあはる先陣の
 敗軍と聞て馬と早りて馳来り。さそよ喚しけ今井の臺よりさかり。
 ち度勵きわたりし人馬とも息をつらう孫を居して引かす。さそよ
 重なり荒れよ千六百騎。あそりまかせられざる。智射も堪へず。戦つと
 する術もあく我先ゆと逆まふ。結陣のりし勝ふ事て後ゆけて逃けて
 今井の臺の原の方より。谷に向ひて人類を落し縛ひ落人馬まうて死
 まのの教と知く。適助も者の弓矢を力と捨てる。さそりさそり共志
 郷民等へいふ徳行てぞあそる。鎌倉勢も千騎の八方へ散れ。又一
 集あつね。買入道もさそあ。神奈川まで引退き。桂現し小陣とさ
 市川松戸へむし。三千餘騎と傳そる。鎌倉入とあそ。さそり。さそり。成氏さ

討ある首級三百四十と卒給ひ。さそり。今井の臺も懸あ。凱歌三度執
 行ひ古河の城へぞ取。さそり。さ後武士も忠賞をば。中も結陣軍
 功技群たりと。武藏相撲上総下総の國へ小領少く有。瓜分り。成朝
 小堀のさる。成氏鎌倉を退去ありて。古へ移られ。後ハ威光日々衰へ
 武士よりつる所領とも百姓種々難儀。収納も減少。さそり。理をさる。れ
 成氏い。さる。半や慈仁の公薄く。我々の事を専ら。他人の異見を拒み。公
 奪りて怒あり。か。行臨の。將さる。親と馴る者稀あり。自然。成氏
 徳も衰微。さる。その後。結陣。成朝も。解をさる。結陣。小堀。成氏。さる。も。
 成氏朝。本領。を悉く。散。他人。是。知行。を。成。領。の。形。勢。へ。御。所。成。氏。へ
 忠節と盡。さる。其。遺。跡。の。領。地。を。彼。孫。の。お。び。さる。不。忠。の。疑。押。領。を。
 さる。東。國。の。御。所。管。領。を。始。り。て。國。に。諸。將。小。さ。さる。忠。と。不。忠。の。吟。味。

も如く親跡ふたりて賞罰あれた。人の恨も尽さるゆゑふ。合戦野付由止む
回す。世殿は流季よおつて思ひあがら。君臣上下の法不違へ奴婢従僕
乃輩ゆでを教く世の中をわたりぬる事こそ為情を也。

○成氏昌賢と武正の御合戦附り小机弾正左衛門武勇の事

あつち小長尾入道昌賢へ今井の軍ふらち負て鎌倉へ逃去りて。上杉顯定も
無念の事おかりし。再去を借りて古河の城を攻落し。今井の恥辱を清めん
と。文正元年二月。上杉民部を輔顯定并も尾入道昌賢は彼是六十餘騎に
古河へ發向せり。下総の成氏安田とせり。今度も途中まで馳向ひ
路次めて唯雄と決せん。城の儘は三百餘人を残り。其の身は二十餘騎に従へ
武藏の山へお出され。以前乃勝軍ふあひらる者ども。此所彼處より馳着きて
三千七百餘騎より。六百五百餘騎を引分け。終つての志は強し。居むを

大田道灌當時は鎌倉あつて。扇谷の定正の館小居る。れども若長城を守

ふものども。後次襲ふ事あつて。時乃為とて。置とる。成氏は二千二百餘
騎六郷乃川と前小橋板五間指外。播権の料とて。敵遅しとて。待りき

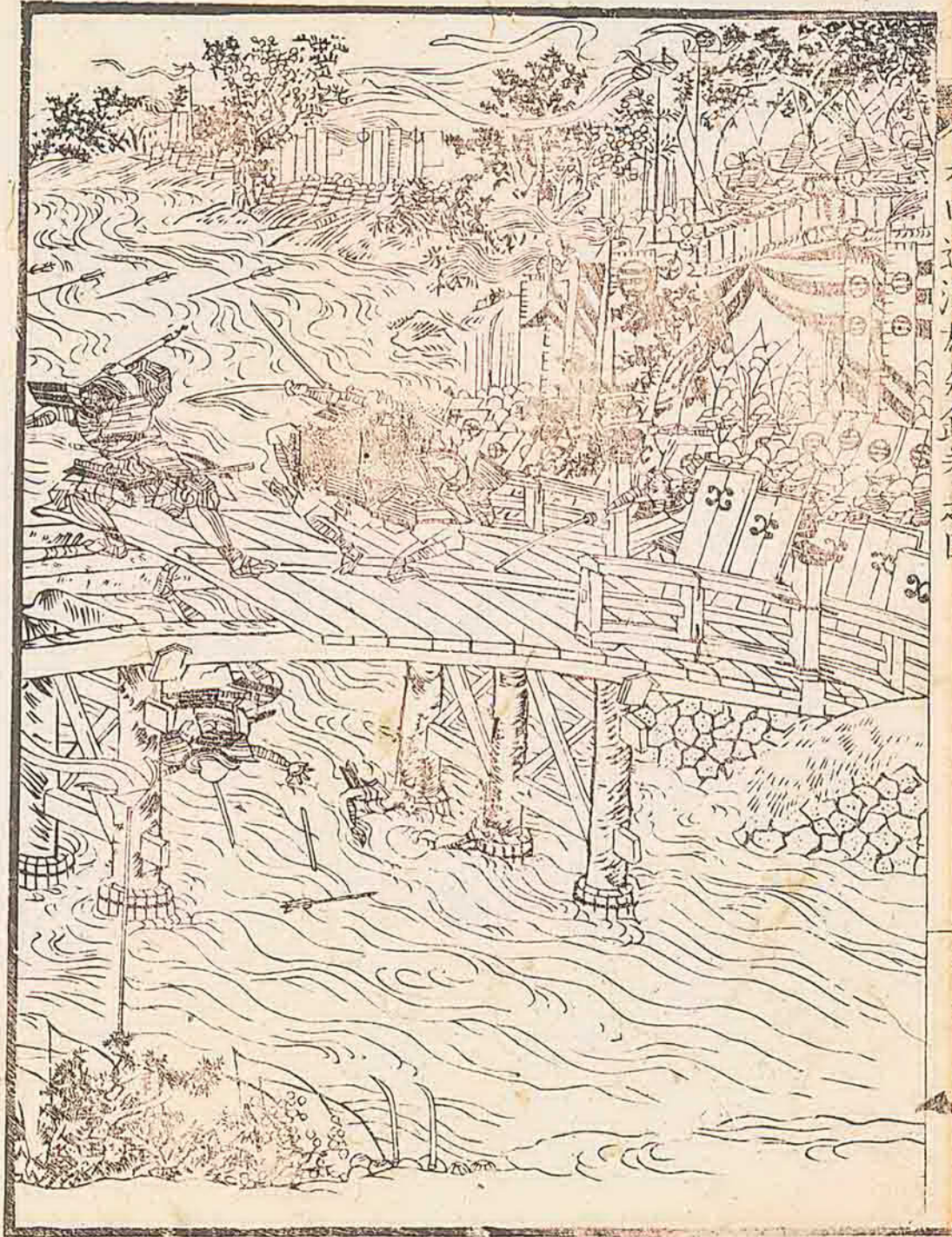
とる。然る小結成次朝進も。出くや。今井の戦ひは味方利をば
夏に敵兵油断すも。あつて。振く。村務のいぬ。今度いふ。似て。借奉の公を

按ずる。然る勢の生張延引。一ツの陣とて。いふ。清利の由。恐城のり。防戦有ん
ゆゑ。急ぐ。落松す。急ぐ。ゆゑ。今井の軍も。多く。亡へ。後。鎌倉勢の發向延

引。とて。聞。あつて。清利の今井の勝利。あつて。いふ。敵を離。中途。めて。戦。ん
その時。大勢の中。いふ。総て。一人も。洩。さ。討。た。ん。の。御。あ。て。い。ん。死。御。の。瓜

瓜。川。一。ツ。を。移。り。て。尋。常。の。と。く。軍。さ。必。定。味。方。利。を。失。く。ん。昔。より。今。小。至
ふ。ゆ。で。大。勢。に。敵。と。川。を。隔。て。た。い。ら。る。多。勢。の。方。を。渡。され。小。勢

武州
 六甲の
 合戦
 小折澤
 なる昌安
 橋掛と
 波く
 勇戦の図



大田道灌松平金巻巻之四

大田道灌松平金巻巻之四

一、勵す一用をたす。上、秋方の者どもは、援のあつて所を、小押を、
 方脱し、弱り、（さか）城の分隊、（まが）何れも、事、（ま）あつて、（ま）攻具、（ま）も、
 欠け、（ま）貝を、（ま）攻と、（ま）大に、（ま）一、（ま）声、（ま）攻、（ま）攻、（ま）攻、
 防戦と。上、松方の大軍、（ま）荒、（ま）攻、（ま）攻、（ま）攻、（ま）攻、
 休む、（ま）攻、（ま）攻、（ま）攻、（ま）攻、（ま）攻、（ま）攻、
 事、（ま）攻、（ま）攻、（ま）攻、（ま）攻、（ま）攻、（ま）攻、
 馬、（ま）攻、（ま）攻、（ま）攻、（ま）攻、（ま）攻、（ま）攻、
 あり、（ま）攻、（ま）攻、（ま）攻、（ま）攻、（ま）攻、（ま）攻、
 かくて、（ま）攻、（ま）攻、（ま）攻、（ま）攻、（ま）攻、（ま）攻、
 念、（ま）攻、（ま）攻、（ま）攻、（ま）攻、（ま）攻、（ま）攻、

小出張して。成氏、（ま）攻、（ま）攻、（ま）攻、（ま）攻、（ま）攻、
 あり、（ま）攻、（ま）攻、（ま）攻、（ま）攻、（ま）攻、（ま）攻、
 那須、（ま）攻、（ま）攻、（ま）攻、（ま）攻、（ま）攻、（ま）攻、
 其、（ま）攻、（ま）攻、（ま）攻、（ま）攻、（ま）攻、（ま）攻、
 廿、（ま）攻、（ま）攻、（ま）攻、（ま）攻、（ま）攻、（ま）攻、

○長尾京春、（ま）攻、（ま）攻、（ま）攻、（ま）攻、（ま）攻、（ま）攻、

あり、（ま）攻、（ま）攻、（ま）攻、（ま）攻、（ま）攻、（ま）攻、
 定、（ま）攻、（ま）攻、（ま）攻、（ま）攻、（ま）攻、（ま）攻、
 上、（ま）攻、（ま）攻、（ま）攻、（ま）攻、（ま）攻、（ま）攻、
 揚、（ま）攻、（ま）攻、（ま）攻、（ま）攻、（ま）攻、（ま）攻、

多し。是よりて補佐の内差願毎くハハズベシ。昌慶が才。毛尾尾
 張守た京中付ゆらさる。然るも毛尾尾は門尉景春へ。故入道が
 嫡子あり。毛尾一家の中あり有勢の大なるあり。是より老父留賢忠孝他々
 異あるゆゑ。上杉の家務職ハ我ありていとまのい居らる。其妻もまきひく
 伯父忠常中付ゆらさる。生後後わきまのあき。大不義定を恨み憤りて。
 忽て心欲企備ふ。死定をせし。己が本意と達せんとまのい居らる。吾く我己
 の勢ありて拵どる。これハ扇ガ谷引込めて。死定亡び官領ハ定一人小
 歸し中えん。然らば扇の國も多くなり。吾等も數多死せんと。かくして中斷を
 退治せ。其功速よ。本中えんと。勅え。定正。死ハ固意あり。あれ最上乃
 謀略ありと。獨嘆して。さるも。田入。送ハ扇ガ谷の執事あり。待其縁者
 されハ。通治ふ。と。待合せんと。氏茂の在土へ。あり。道治ハ對面。其腹語

終りと。系まへ。田ガ側。逆く居る。家ハ宿意のまもむ。瓜倍り。扇ガ
 谷。後必。定。許。密。ゆ。ん。足。下。も。又。も。む。此。事。能。く。言。上。し。め。ら。ん。と。思
 入。り。て。ぞ。や。さ。る。道。治。つ。く。足。と。聞。く。ま。り。や。一。大。事。あり。獨。取。不。蕭。牆。乃
 同。よ。怒。り。し。と。中。中。の。怒。り。と。り。と。い。ふ。さ。る。ね。舞。よ。り。と。れ。足。下。の。待。憤。道。理
 とも。極。あり。ゆ。り。さ。る。山。の。内。殿。御。事。あり。も。三。代。相。恩。の。ま。君。あり。足。下。親
 父。と。し。て。功。あり。も。臣。あり。と。や。臣。と。て。君。不。仕。入。新。骨。碑。身。と。も
 櫻。の。不。結。ぶ。ぎ。理。あり。持。不。忠。逆。心。の。者。終。死。全。する。事。は。幸。朝。異。域
 の。遠。き。昔。の。ら。も。赤。松。滿。祐。義。教。公。を。弑。し。り。も。命。と。白。旗。の。旗。々
 落。し。長。棟。庵。主。の。持。氏。々。瓜。の。ひ。も。軀。と。中。國。の。寺院。不。隱。と。毛。尾。の。威。の。強
 き。上。杉。家。存。る。由。也。あり。上。杉。又。東。國。の。徳。ね。と。指。揮。す。ハ。後。領。の。任。重。々。也。ハ
 あり。皆。是。公。事。あり。て。其。人。の。私。意。あり。此。事。三。思。の。後。を。思。ひ。め。ら。し。

のうらみとすまねが。東春のつゆも足下のすまねの。大道の確論ありぬ。今うかす
擾乱の時ありては。聖人の用方ふゆ。其暗るは廢しく明君はらん
ふ。何の不安といふ事やゆん。我の腕あきまると。面色安くと見えぬ。道は
尚も綱とわづらひ。其まは撫く事とぬらん。こもる。君暴虐あるが由ある。其は
絶つと患ひく。祖先の犯とせむ。民と安くとせん。その。私の恨。以
てとせむ。事とせむ。祭と南軍。紂と鹿臺。燔と。成湯。武王
の万民乃陰炭。成。紂の重人のよき。重人の徳ふれば。を裁する罪あり。
まは裁する者。行の罪をりて。其首を斬る。是天下の大法あり。事と別
て。さむぐと教諭せむ。事をも。流石。道は。公侯。を。顔色を直
ゆ。公侯の。解。ま。え。ま。道。准。も。寸。志。の。綱。公。安。入。る。公。謝。し。それ。より
酒。者。を。殺。り。て。り。て。ま。一。者。身。入。り。ま。ま。い。と。向。を。若。て。己。居。所。へ。帰。

まらるる。兎角此事止むとて。空しく遂さの討。公侯。昼夜。小工。ま。せ。め。ぐ
ら。ま。ら。る。

○道灌上校。頭定へ。景春。結。討。を。勸。む。附。る。系。表。保。叙。の。事

か。く。く。ち。田。道。澄。へ。ま。ま。ま。事。捨。を。く。く。忍。び。く。五。十。子。の。陣。へ。系。り。頭。定
少。後。見。し。く。七。尾。を。ま。ま。後。わ。り。の。智。流。じ。く。事。不。就。き。如。く。城。む。の。僻。あり。
され。ば。伊。家。の。執。事。へ。る。び。ま。ら。る。よ。い。ひ。も。父。入。道。を。忠。功。を。や。る。る。あり。
武藏の。年。後。代。を。修。せ。付。く。も。兼。て。不。和。なる。を。ま。ま。く。和。後。は。せ。せ。ま。系
め。も。い。は。の。し。用。を。令。が。れ。一旦。は。伊。國。の。ま。ま。二。入。遣。り。ま。れ。い。ら。る。系
ま。ま。心。辭。く。や。ま。ま。内。然。よ。く。山。移。入。の。山。陣。中。ま。ま。の。ま。ま。山。邊。邊。法。も
は。心。の。憐。れ。あ。る。系。ま。ま。ま。ま。後。友。の。者。も。狼。藉。の。族。日。成。退。く。ま。ま。か。く。く。
遠。く。す。く。山。移。入。ま。ま。ま。ま。ま。能。く。山。移。と。し。く。これ。然。る。く。い。ま。ん。と

中より一りしども。我定と始り評定人とも孰もまふ事なり。日本に於て是の如き事
有らざる。唯此の如き事ありといふとも。いつれか之の事ありといふ。一國の事あり。其の時
道隆然らば事の人ひありぬ。先よ。此の如き事あり。此の如き事あり。此の如き事あり。
是の如き事あり。此の如き事あり。此の如き事あり。此の如き事あり。此の如き事あり。
此の如き事あり。此の如き事あり。此の如き事あり。此の如き事あり。此の如き事あり。
此の如き事あり。此の如き事あり。此の如き事あり。此の如き事あり。此の如き事あり。
此の如き事あり。此の如き事あり。此の如き事あり。此の如き事あり。此の如き事あり。

上枚野宮の折希小勢ありあり。此の如き事あり。此の如き事あり。此の如き事あり。
庫頭憲房より連へ。一先よ。此の如き事あり。此の如き事あり。此の如き事あり。
なつ。道隆が又之を道真と殿し。利根川より派上り。利根川より派上り。利根川より派上り。
へそ退きあひ。

凶賊

遠乃白浪

中本 全三冊

十返舎一九著 葛飾北齋戴斗画

此の如き事あり。此の如き事あり。此の如き事あり。此の如き事あり。此の如き事あり。
此の如き事あり。此の如き事あり。此の如き事あり。此の如き事あり。此の如き事あり。
此の如き事あり。此の如き事あり。此の如き事あり。此の如き事あり。此の如き事あり。
此の如き事あり。此の如き事あり。此の如き事あり。此の如き事あり。此の如き事あり。
此の如き事あり。此の如き事あり。此の如き事あり。此の如き事あり。此の如き事あり。
此の如き事あり。此の如き事あり。此の如き事あり。此の如き事あり。此の如き事あり。

太田道灌雄飛録卷之四終

太田道灌雄飛録卷之四終

